

新生会における在宅血液透析（HHD）離脱症例の検討

金山クリニック 内科¹⁾、新生会第一病院 内科²⁾

○小川 洋史¹⁾、太田 佳洋²⁾、不破 大祐²⁾

1972年6月、当院における在宅血液透析（HHD）訓練が始まった。1998年になって漸くHHDは保険収載となった。1972年より2019年9月までに、当院にてHHDを離脱した症例132例（男性118例、女性14例）、132例中7例がHHD再導入後の離脱を経験しているため、延べ139例のHHD離脱について検討した。なお、1998年の保険収載に伴うHHDの転院患者は今回の検討から除外している。

HHD離脱時における年齢は 52.1 ± 12.3 歳、HD歴 14.4 ± 10.3 年、HHD歴 10.9 ± 9.2 年であった。離脱理由は、1) 疾患39例（28.1%）：循環器疾患：10例、シャント関連：8例、整形外科疾患9例など、2) 死亡24例（17.3%）：悪性腫瘍4例、感染症5例、心不全4例など、3) 介助者の問題22例（15.8%）：介助者の負担9例、不仲5例、病気2例、高齢4例など、4) 移植18例（12.9%）、5) 本人の意思18例（12.9%）：定年退職5例、高齢2例など、6) HHD転院（1998年以外）9例（6.5%）、7) 離脱理由不明9例（6.5%）、介助者の問題による離脱は3番目に多い離脱理由であり、介助者の思いの把握に努める必要がある。